

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	績	耐震管によるループ化を進める	km	目標	20	22	23
実績				20	21	22	
			目標				
			実績				
成果指標名	単位			H25	H26	H27	H28

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	<p>事業の達成状況</p> <p>事業実施における課題</p> <p>基本施策の展開方向の目的に対する影響(貢献等)</p>	<p>平成27年度はループ管[実績1.0m/目標数1.5km]=65%が完成した。実績が1.0kmにとどまった理由として、平成28年度へ繰り越した工事があるためです。耐震管更新は11.3km更新した。</p> <p>※達成率は実績の端数を含んで計算</p> <p>ループ管の布設ルートは、一級河川や国道の各横断及び交通量の多い市道への埋設など容易に施工できない箇所がある。耐震管への更新工事では、水道管を埋設する公共用地の形状、幅員及び他の占用物によって、占用位置が確保できない状況がある。</p> <p>耐震管によるループ化を推進することにより、地震などの災害時の被害を抑制し、水道水の安定供給を確保できる。</p>	
	平成28年度の改善内容	<p>28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)</p>	<p>ループ管について今後容易に施工できない箇所では、29,30年度の工事に備え、事前に関係機関と十分調整し、事業の進捗を図っていく。耐震管への更新では、他占用者との埋設位置の調整を十分図り、占用位置を確保する。また、他工事との調整により効率のよい工事を進めていく。</p>	
	平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由		<p>主要幹線のループ化によって、地震災害において管の破損による断水が軽減されるばかりでなく、万一の破損においても別ルートからの配水を受けることができるため、長時間の断水のリスクが大幅に小さくなる。耐震管更新事業は、安全で安心なおいしい水が安定供給されるための継続的実施が必要である。</p>
	29年度以降の改善案		<p>主要幹線のループ化の早期完成に向け、次年度、次々年度工事について関係機関と事前に調整を図る。また、管理者、地形、交通等の各条件に適した工法の検討を行っていく。耐震管の更新では、口径の大きな水道管の非開削工法(パイプインパイプ)について、口径の小さな水道管でもサイズダウンが可能か検討の上、更新事業を進めていく。</p>	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。